

Ⅲ. 取組を支える組織

1. 地域住民ボランティア(教育ボランティア)の組織化

現代GPの取組を実施するにあたって、テーマである「地元住民と共に学び共に創る健康生活」を実現するため、本学の教育に協力・参加してもらう地域住民ボランティアを組織することをめざした。これにもとづき、授業や演習・実習への協力・参加を了解し、申込みのあった地域住民を「教育ボランティア」と位置づけた。

さらに平成19年度より、学内での授業や演習において模擬的に患者役を演じることや生活体験の話など各教科が依頼する内容を行う者を「学内ボランティア」、健康支援学実習時に家庭訪問等を行い健康に関して地域での生活体験を聞くことに協力する者を「実習ボランティア」と呼び分けた。

1) 教育ボランティアの組織づくり

(1) 学内ボランティアの募集及び登録方法

学内ボランティアは、次の①～③の方法により登録者を募り、申込みのあった者を登録し、学長名の「登録証」(資料Ⅲ-1-1参照)を発行した。

- ①地域における行事等において、直接依頼した。
- ②大学の行事やセミナー等に参加した住民に、直接依頼した。
- ③学園東町、学園西町の住民を対象に行なった健康調査票に依頼書を同封した。

資料Ⅲ-1-1 教育ボランティア登録証

<p style="text-align: center;">神戸市看護大学教育ボランティア登録証</p> <p style="text-align: center;">あなた様を、本学の現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代GP) (文部科学省助成プログラム)「地元住民と共に学び共に創る健康生活」の 教育ボランティアとして登録いたしましたことをここに証します。 今後とも本学の教育にご高配賜りますよう、よろしく願い申し上げます。</p> <p>御氏名： 期 間：平成 年 月 日 ～ 平成 年 月 日</p> <p style="text-align: center;">平成 年 月 日 神戸市看護大学長 池川清子 印</p>
--

(2) 実習ボランティアの募集及び登録方法

実習地区(10地区)の民生児童委員の代表者を通じて、各地区の実習ボランティアとしてふさわしい人物を推薦してもらうことを原則とした。

このため、まず事前に窓口となる西区健康福祉課と調整をはかり、民生児童委員協議会会長会において、健康生活支援学実習Ⅰの実習での教育ボランティア(実習)依頼を行った(p186～188の資料Ⅲ-1-2、資料Ⅲ-1-3、資料Ⅲ-1-4参照)。各会長から推薦者を書いた登録用紙(p189の資料Ⅲ-1-5参照)が届き、登録後、学長名の「登録証」を送付した。登録手続後、各地区の担当教員に実習ボランティアリストを配布した。

平成20年 月 日

西区民生児童委員協議会

様

神戸市看護大学

学長 池川 清子

「教育ボランティア（実習）」の推薦のお願い

平素は、神戸市看護大学の教育にご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。
ございます。

本学におきましては、看護師・保健師を目指す学生が、地域の人々の生活を理解し健康な生活を支援する能力を育成するために、昨年度より「健康生活支援学実習Ⅰ（様式1）」を西区で実施させていただいております。民生児童委員様方のお取りはからいで、多くの地域住民のみなさまが「教育ボランティア」として、この実習にご協力をいただき、学生が多くの学びを得ましたことを感謝申し上げます。

先日の会長会でお願いしました通り、今年度も、昨年と同様の地域で「健康生活支援学実習Ⅰ」を実施したいと計画しております。つきましては、下記の内容についてご協力いただきますようお願い申し上げます。

ご多忙中とは存じますが、格別のご配慮を賜りますようお願い申し上げます。

記

1. 昨年度にご登録いただきました「教育ボランティア」の皆様にも是非お声かけいただき、貴地区において8～10名の「教育ボランティア」様をご推薦下さい。
2. その際、同封しました様式2と様式3をお渡し下さい。
3. 記入後の様式3をまとめていただき、本学に12月16日（火）までに同封の封筒にてご返送下さい。なお、後日、大学の担当教員から、推薦いただきました「教育ボランティア」の皆様にご通知申し上げます。

【健康生活支援実習Ⅰの概要と教育ボランティア（実習）の方の募集について】

1. 実習科目：健康生活支援実習Ⅰ

2. 実習時期：平成21年2月9日（月）～2月27日（金）

3. 実習地区

学園都市 伊川谷 有瀬 長坂 井吹台
井吹西 神出 押部谷西 竹の台 桜ヶ丘

（平成20年度は平成19年度と同地区とさせていただきますが、数年毎に若干の交代をお願いいたします。）

4. 住民ボランティア様にご依頼したい内容

1) 各地区に8名～10名の教育ボランティア様の登録をお願いしたい。

教育ボランティア様はどのような方でも結構です。例えば下記のような方

- ・老人会・婦人会等自治会活動をされている方
- ・子育て中（乳幼児・児童など）の方、妊娠中の方
- ・農業や自営業などをされている方
- ・主婦の方
- ・高齢者のお一人暮らしや高齢者のお二人暮らしの方
- ・退職後の方

昨年度にご登録いただいております教育ボランティアの皆様にも是非お声かけいただきますようお願いいたします。

2) 学生の実習方法

学生2人1組になり教育ボランティア様のお宅に訪問させていただき、健康状態、健康について気を付けていることなどを学生にお話していただきたい。（詳しく下記の3をご覧ください）また、教育ボランティア様の病院受診、健診受診、健康づくり活動、地域活動などに参加されることがございましたら学生も一緒に同行させていただきたい。

3) 教育ボランティア様に学生がお伺いする内容等

- ①教育ボランティア様の生活のご様子、健康状態、健康について気を付けていることなど
- ②教育ボランティア様のご家族の構成、ご家族の生活の様子や健康状態など
- ③教育ボランティア様のお住まいの自治会活動等やそこへの参加の状況、お住まいの地域の様子、地域の健康づくりの取組など

問い合わせ先：神戸市看護大学

神戸市西区学園西町3-4

078-994-8080（代表）

（高田（昌）、グレッグ、蘭、岩本、事務：久保）

資料Ⅲ-1-4 教育ボランティア登録のお願い（様式2）

神戸市看護大学から

西区のみなさまに教育ボランティア（実習）登録のお願い

神戸市看護大学

学長 池川 清子

神戸市看護大学（所在地：西区学園西町）では、看護師・保健師・助産師を目指した学生が学んでいます。その学生が、今年度から西区にて地域の人々の生活や健康への取り組みを理解するための実習を開始します。つきましては、西区の住民のみなさまに、学生の実習にご協力いただく教育ボランティアとしてご登録をお願い申し上げます。ご協力いただきたい内容は、下記のとおりです。

なお、教育ボランティアへのご登録については、西区民生児童委員の皆様のご協力をいただいております。

記

1 実習時期

平成21年2月9日（月）から2月27日（金）ですが、教育ボランティアの皆様にご協力いただくのは、その中の1～2日程度（1日につき、1時間～半日程度）です。

2 教育ボランティアの皆様をお願いしたい内容

学生2人1組になり教育ボランティアの方のお宅に訪問させていただき、健康状態、健康について気を付けていることなどを学生にお話していただきたい（詳しく下記の3をご覧ください）。また、教育ボランティアの方の病院受診、健診受診、健康づくり活動、地域活動（老人会、婦人会、趣味の会など）に参加されることがございましたら学生も一緒に同行させていただきたい。

3 学生が教育ボランティア様に教えていただきたい内容

- ①生活のご様子、健康状態、健康について気を付けていることなど
- ②ご家族の構成、ご家族の生活の様子や健康状態など
- ③お住まいの自治会活動などやそこへの住民の皆様への参加の状況などの地域の人々の交流の様子や地域の特徴、地域の健康づくりの取り組みなど

教育ボランティアとしてご協力いただける方は、別紙登録用紙にご記入の上、地域の民生児童委員さまへお渡しいただきますようお願い致します。

なお、教育ボランティアの皆様へは実習前に事前に担当の教員から直接実習内容等をご説明させていただく場を皆様の近隣で設けます。この日程調整につきましては、後日お送りさせていただきます。

神戸市看護大学

神戸市西区学園西町3-4

問い合わせ先：078-994-8080

（高田（昌）、グレッグ、蘭、岩本）

2) 教育ボランティア参加状況

教育ボランティアの登録・参加状況は、以下の表Ⅲ-1-1、表Ⅲ-1-2、表Ⅲ-1-3に示した。

表Ⅲ-1-1 教育ボランティア年齢構成別人数

	18年度		19年度				20年度			
	男性	女性	学内ボランティア		実習ボランティア		学内ボランティア		実習ボランティア	
			男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
20歳代						2				2
30歳代				8		16		7		15
40歳代		1		5	1	8		6	1	3
50歳代		1		11	3	16	1	13	2	16
60歳代		4	10	19	5	11	10	21	7	15
70歳代	3	3	11	25	6	15	11	23	6	15
80歳代					2	8				8
不明	1	7								3
計	4	16	21	68	17	76	22	70	16	77
合計	20		89		93		92		93	

表Ⅲ-1-2 学内ボランティアの地区別、性別人数

地区	男性	女性
明石市	0	1
垂水区	0	3
中央区	0	1
西区秋葉台	1	1
西区伊川谷町前開	1	1
西区伊川谷町有瀬	0	6
西区井吹台西町	0	3
西区北山台	0	1
西区桜ヶ丘	0	2
西区竹の台	1	0
西区美賀多台	0	1
西区学園西町	10	24
西区学園東町	9	26
計	22	70

表Ⅲ-1-3 実習ボランティアの実動地区別人数（計 91 名）

西区伊川谷町潤和	1	西区伊川谷池上	2	西区井吹台西町	12
西区伊川谷町布施畑	1	西区伊川谷有瀬	18	西区井吹台東町	5
西区伊川谷町前開	1	西区大津和	2	西区押部谷町	1
西区北山台	3	西区神出町	9	西区桜ヶ丘西町	2
西区月が丘	1	西区竹の台	11	西区桜ヶ丘東町	4
西区美穂が丘	3	西区天王山	2	西区桜ヶ丘中町	2
西区南別府	1	西区学園東町	5	西区学園西町	5

3) 教育ボランティアへの連絡

(1) 学内ボランティア

学内ボランティアへの連絡は、次の①または②のいずれかの方法で行った。

- ①各教科の教員から、以前に協力を得た学内ボランティアへ直接連絡した（少人数で、内容が特化した場合）。
- ②大学よりファックスまたはメールにより全員に日時と内容を知らせた。

(2) 実習ボランティア

実習ボランティアへの連絡は、健康生活支援学実習で実習場所となる10地区担当教員が登録者リストをもとに連絡した。

4) 教育ボランティアへの広報

教育ボランティアへは、本学の様子を記した「教育ボランティア・ニュースレター」を年2回発行し、全員に郵送した。これは、教育ボランティアとして登録しているが、日時や内容などの都合がつかずに活動できなかった者にも様子を伝え、本学の教育ボランティアとして意識し続けてもらうために、平成19年9月から開始し、3号発行した（以下の資料Ⅲ-1-6、資料Ⅲ-1-7、資料Ⅲ-1-8参照）。様々な年齢層が教育ボランティアとして登録しているため、「教育ボランティア・ニュースレター」の送付は、電子メールなどではなく、敢えて印刷物として郵送で行った。

このたび「教育ボランティア ニュースレター」を
発行することになりました。(年2回)
創刊号ができましたのでお届けいたします。

神戸市看護大学
〒651-2103 神戸市西区学園西町3-4

教育ボランティア ニュースレター

創刊号

発行日 平成19年9月

教育ボランティアさんに、糖尿病で教育入院中の患者さんとして学生と話しをしていただきました！

7月9日、「基礎看護技術演習Ⅲ」の授業に20名のボランティアさんの参加をいただきました。みなさんには、糖尿病で教育入院をしている患者として、看護者役の学生と約10分間話しをしていただきました。

みなさんから次のような率直なご意見、ご感想をいただきました。

- 患者体験を持つ身として、学生にもっといろいろなことを話してあげたかった。
- こちらの目をじっと見て真剣に話しを聞いてくれる姿が好印象だった。本当の看護師さんに話しをしているような錯覚になった。きっとその学生はいい看護師さんになると思う。



○糖尿病患者の事例だったが、患者役を演じる際には糖尿病の知識が必要で、少し難易度が高かったが、こちらの勉強になった。

○3名の学生に患者役を演じてみてわかったことは、学生によって知識に差があるということ。学生にはそのことを伝えてあげたかった。

「教育ボランティア」とは

授業にお越しいただき、生活の様子や健康への取り組みなどをお話しいただいたり、模擬的に患者役になっていただいて学生とやりとりしていただくボランティアさんのことです。

ボランティアさんに参加いただくことで、学生は、健康と生活の関係をリアルに理解でき、看護師、保健師として自分にできる支援を具体的に考えていきます。

《今後のボランティアのお願い》

来年1月頃、学生が行う健康教育に対するコメンテーターとしてご協力をお願いしたいと考えております。

近くなりましたら詳細についてお知らせいたします。

編集・発行

神戸市看護大学 現代GP
教育ボランティア部門

教育ボランティアさんの参加で、臨場感のある学習ができています。

ボランティアさんが患者として入ってくださることで、学生は臨場感のある体験ができました。授業を終えた学生は次のように語っていました。

- 病院実習のことが想定できた。
- 沈黙に困ることもあったが、ボランティアの方が助けてくれた。

この他にも、交通事故で腕を骨折した患者になっていただいて学生がそのお食事を援助したり、健康のことを意識した生活の様子をお話しいただいたり、などのご協力をいただいています。

みなさんにとっても教育ボランティアの体験から何かを得ていただけるようです。今後もご協力のほどよろしく願っています。

神戸市看護大学
〒651-2103 神戸市西区学園西町3-4

「教育ボランティア ニュースレター」は年2回発行しています。第2号ができましたので、お届けいたします。

教育ボランティア ニュースレター

第2号

発行日 平成20年4月

「健康生活支援学実習Ⅰ」で、 今回初めて、実習ボランティアさんに、学生の教育にご参加いただきました。

「教育ボランティア」とは「学内ボランティア」と「実習ボランティア」を言います。

「学内ボランティア」さんには、授業にお越しいただき、生活の様子や健康への取り組みなどをお話しいただいたり、患者役になっていたたりしています。

「実習ボランティア」さんには、学生の実習時に家庭訪問をさせていただいたり、地域での活動に同行させていただいたりしています。

ボランティアさんに支えられ、学生は、健康と生活の関係の実際を学んでいます。

2月12日～2月29日まで、健康生活支援学実習Ⅰに87名の「実習ボランティア」さんにご協力を頂きました。家庭訪問をさせて頂いたり、病院、デイサービス、子どもさんの予防接種などに同行させて頂きました。学生は地域で生活をしておられる方々と実際に触れ合うことで、生活と健康の関係、地域の方々の健康に対する考え方を学ぶことができ、健康支援のあり方を考えることができました。また家族や地域住民の方々の助け合いについても、その実際を学ばせていただきました。

学生にとっては、地域の方々と触れ合う貴重な実習であり、これまでの実習以上に、生き生きと取り組んでいました。

しかし、今回が初めての实習であったために、教員にとっては指導上の多くの課題も見えてきました。これからも実習ボランティアの方たちに助けて頂きながら、よりよい学習機会を提供して行きたいと考えています。



＜ボランティアの方にもご参加いただいた学生の実習経験発表の写真＞

学内ボランティアさんの授業協力

平成19年10月～平成20年2月、学内ボランティアさんに授業にご協力頂きました。

看護技術の演習:患者役をお願いし、学生が足を洗う、食事のお手伝いをするなど。
老年看護:生きがいや健康な生活を送る工夫についてのお話。

小児看護:子どもが健康な生活を送るために行っていることのお話。

情報の授業:ホームページ作成の体験談。

コミュニティヘルスケア:学生の「健康教育」を聞いてのコメント。

ボランティアの皆さんのお陰で、学生は臨場感のある学びをしています。学生の感想については、同封の用紙をご覧ください。

ボランティアをしていただくことが、何らかの形で、皆さんの健康を考えていただくきっかけになればと思っています。

今後ともどうぞよろしくお願い致します。

「学内ボランティア」さんは、現在も募集中です！

学生の教育にご協力ください。

神戸市看護大学
〒651-2103 神戸市西区学園西町3-4

「教育ボランティア ニュースレター」は年2回
発行しています。第3号ができましたので、
お届けいたします。

教育ボランティア ニュースレター

第3

発行日 平成20年10月

おかげさまで、
学生たちの学びがさらに深まりました

2つの授業で

6月30日午後、「基礎看護技術演習Ⅲ」に、36名の学内ボランティアさんにお越しいただき、2年生79名の学びを支えていただきました。

学生が「看護師」としてボランティアさん扮する「患者さん」にに対し、お話をするという設定で学習しました。

ボランティアさんには、「糖尿病で教育入院をしている患者さん」、「脳梗塞による尿失禁のある女性の患者さん」の2つの役をやっていただきました。事前のオリエンテーションがあるとはいえ、すぐにこのような患者の役割を果たすのはなかなかむずかしいもの。しかし、そこはみなさまの豊かな

人生経験をもって補っていただいたように思います。ご自身の患者体験からお話くださったたり、沈黙が走ったときには言葉を継いでくださったたりと、あたたかな配慮のもと、授業が展開しました。

学生たちは緊張しつつも会話を続け、病院でのやりとりの一端をイメージし、体得することができました。



また7月23日には、「健康生活支援技術演習」に29名のボランティアさんご参加くださいました。子育て、妊娠期の過ごし方、生活習慣病予防、健康づくり、介護予防などのテーマで学生たちが「健康教育」の発表を行い、ボランティアさんから率直なご感想やご講評をいただきました。人に何かを伝えることの難しさと楽しさを学びました。ありがとうございました。

* * * * *

GPシンポジウムのお知らせ

神戸市看護大学では、平成18年度より、「地域住民と共に学び共に創る健康生活」という取り組みを行ってまいりました。

この取り組みは、文部科学省の平成18年度「現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代GP)」に採択されています。

このたび、その成果報告も兼ねて、つぎのようなシンポジウムを開催することにしました。

平成20年度神戸市看護大学

GPシンポジウム

「地域住民と共に学び
共に創る健康生活」

日時：平成20年11月29日(土)
13:00~17:00

場所：神戸研究学園都市
「ユニティ」セミナー室4

基調講演

「大学と地域の連携による健康支援」
小山田恭子 文部科学省専門官

成果報告 高田早苗 本学教授
シンポジウム

「住民による教育支援と
学生による地域支援の融合」
教育ボランティアの立場から
学生の立場から
教員の立場から
地域行政の立場から 各代表

お申込は、
本学現代GPシンポジウム係まで
FAX794-8086 電話794-8080

どうぞふるってご参加くださいますようお願い申し上げます。

2. 学生ボランティア活動の促進と組織化

学生ボランティアの活動は、現代 GP の「地元住民による教育支援と学生による地域支援の融合と eヘルスの活用」の「学生による地域支援」に位置づけられる。近年、学生ボランティア活動の支援は、大学の重要な教育理念とされていることを踏まえ、選択科目の「ボランティア活動」科目履修と学生のボランティア活動参加をリンクさせることで、ボランティア活動の教育的意味をより明確にした。

学生のボランティア活動を推奨し支援することを目的に、現代 GP 委員会の中に 7 名の委員のボランティア部門を設置した。現代 GP 開始当初は「ボランティア組織づくり」に取り組み、19 年度は「登録メールを使ったボランティア参加の増加」に取り組み、20 年度は「学生主体のボランティア活動の支援」と「学生の満足度調査のまとめ」に取り組んできた。

1) 学生ボランティアの組織づくり

(1) 学生ボランティア登録システムと運用

登録システムの目的は、登録メールを通じて、現代 GP 各部門からのボランティア要請や他の団体からのボランティア情報を学生に発信し、学生のボランティア参加の意識づけを強め、自主参加意欲を育成することである。

学生ボランティアは氏名・年齢・メールアドレスを登録する登録制とした。そのため学生に向けて新年度オリエンテーション毎に説明会を実施した。その登録情報をもとにメールリングリストを作成し、各領域の教員がメールリングリストにボランティアの募集を呼びかける方式とした。このことでボランティア募集情報が教員から学生個人の携帯電話・自宅パソコンに一括で送信され、参加可能なボランティアを学生が自由に選択できるようになった。従来のボランティア募集は掲示もしくは教員からの紹介によって学生を集めていたが、メールリングリストを活用することで教員も学生もタイムリーに情報を送受信できるようになった。3 年間の登録者数は、延べ 182 名、送信されたメール数は 119 通にのぼる(平成 21 年 2 月 13 日現在)。また、メールリングリストの管理はボランティア組織部門の教員が eヘルス部門の教員と連携して行った。

(2) ボランティア T シャツの作成

ボランティアに参加する教員、学生間の結束を固め、士気を向上させるためオリジナル T シャツを作成し、ボランティアに参加する際に着用できるようにした。また T シャツに入れるロゴマークは学生から公募した。

(3) ホームページの作成

現代 GP ホームページにも、写真などで定期的にボランティア参加の様態をアップし、参加学生の感想や印象も載せ、学内だけでなく、学外、地域の住民にも発信した。



ボランティア T シャツ

(4) 学生ボランティアの集い

現代 GP 関連イベントや事業のボランティア活動は多岐にわたるため、それぞれのボランティア活動に参加している学生間の情報交換や交流の場として、平成 19 年 1 月及び平成 20 年 1 月に「集いの会」を教員が中心となって企画した。学生は、集いを通してボランティアに参加することで得られた学びを深めることができ、また参加したことのないボランティアの内容や活動の情報を得ることで、次年度のボランティア活動への参加の意欲が高まった。



「集いの会」のボード



「集いの会」の様子

2) 学生ボランティア参加状況

(1) メーリングリスト登録者数

学生ボランティア・メーリングリストの登録学生数は平成 19 年度 113 名、平成 20 年度 154 名で、年度ごとに増加していた。学年は 1 年生と 2 年生が約 60%であった (図 III-2-1)。

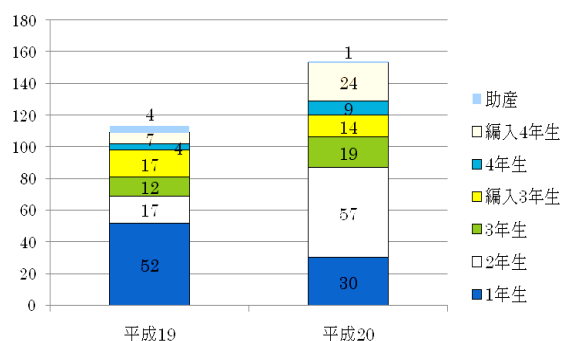


図 III-2-1 平成 19 年・20 年の登録者数

(2) 参加学生延べ数、実動学生数

平成 18 年 10 月～平成 20 年 9 月にボランティアに参加した学生の延べ人数は 340 名で、実動人数は 195 名であった。半期ごとの経過をみると、実動人数は平成 18 年後期 59 名、19 年前期 55 名、19 年後期 62 名、20 年前期 86 名と漸次増加し、意識の高い学生が多く参加するというより、広範囲の学生が参加する傾向があった (図 III-2-2)。

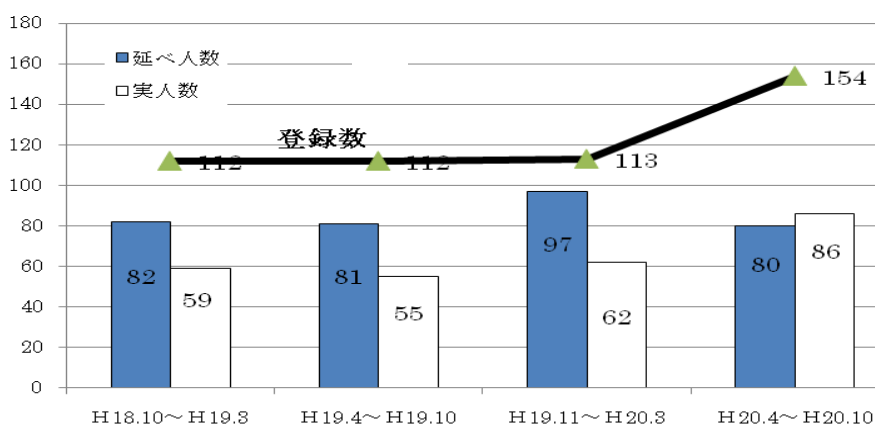


図 III-2-2 半期ごとの登録者数、参加延べ数、実動人数

(3) 学生のボランティア参加回数

ボランティアに参加した学生 195 名の参加回数を右表に示した。2 回以上参加した学生は 61 名で、最も回数が多かった学生は 10 回であった。ボランティア参加の意識の高い学生が育成されたと評価できる。今後、次の学生にボランティア参加を継続していくため、これらの学生の経験を伝える場を設定することが重要である。

表Ⅲ-2-1 学生の参加回数

参加回数	学生数(名)
1 回	134
2 回	24
3 回	20
4 回以上	17

3) 学生主体のボランティア活動の支援

(1) 取組の意図

メール配信によってアナウンスされたボランティア企画に「応募」という形だけでかわるのではなく、自らがプログラムをつくり出し活動することにより、ボランティアの基本である自主性を育成することを意図した。

(2) 取組の経過

まず、これまでの活動参加者の感想を把握し、同時に学生間の親睦をかねて、平成 20 年 1 月 17 日に「現代 GP 学生ボランティアのつどい」を催した。その際に、教員側から、次年度の「まちの保健室」について学生に積極的にかかわってもらいたい旨、依頼した。おおよその企画案として、カラーアナリシス（のちに、カラーセラピーに変更）、メイクアップ、笑い、マジック等のテーマを周知した（各テーマには、担当教員が配置された）。つぎに、当年度内にこれらの企画を催すおおまかな日程を決定するとともに、これらの企画案について登録学生にメール配信し、学生たちの取り組み希望をたずねた。そして、平成 20 年度初めの学生オリエンテーションの際にボランティア登録の案内と募集をおこなうとともに、新企画「学生主体グループによる企画」をあげ、取り組み希望者を募った。

アロマセラピー 4 月

本企画は 4 月早々であったせい学生が集まらなかったため、急遽、急性期・慢性看護学のゼミ生（編入 4 年、学部 4 年）の学生 10 名の協力を得て、当日の昼休みにハンドマッサージのトレーニングをし、そのまま本番に臨んだ。本番では学生にリラックスやタッチングも即興でやってもらい、好評であった。

カラーセラピー 7 月

本企画には希望学生がいなかったため、担当教員が授業で呼びかけ、招聘講師の著作や関連資料を講読し、学生の関心をうながした。当日は、編入 4 年生が司会を担当し、編入 3 年生はワークショップの各テーブルに分かれてすわり、参加者への声かけ等を行った。

笑い&マジック 10 月

本企画は、4 月終わりから「まちの保健室」の本番まで、計 10 回にわたり充実した活動を展開した。昼休みや空き時間を利用し、「笑いと呼吸」などの‘理論’と「小話、笑い歌」などの‘実践’とをにらみながら勉強を重ねた。当日のプログラムも司会も学生 4 名により行った。

メイクアップ 11月（あざみ祭）

本企画は4月から学生ボランティアを募っていたこともあり10人の応募があり、毎月1回程度の打ち合わせとDVDを使ってのリハビリメイクの練習を行った。当日は学生ボランティア8名が参加し、積極的に招聘講師の司会や支援を行った。

(3) 支援体制

学生の応募がなかった企画については、教員が個別に学生に声かけした。また、企画準備のための資料や素材を提供した。また講師の招聘について事務的サポートを行った。

(4) 結果

各企画には、4～8名の参加があった。準備も楽しく、当日も緊張はしたものの充実した達成感を得られたという感想で、おおむね成功であったと思われる。ただ、前期の「まちの保健室」の日時には授業が開講されていることもあり、参加したくても参加できない状況があったのは残念であった。実践経験の下級学年への継承が課題である。

4) ボランティア参加学生のアンケート報告

現代GP事業にボランティアとして参加した学生に対し、参加直後に活動に関する調査を行った。217名（回収率63.8%）の学生からアンケートを回収することができた。

アンケート調査は、学年、参加のきっかけ、ボランティア活動に対する満足度、満足または不満足の原因、から構成されている。以下に、集計を示す。

(1) 参加学生（表Ⅲ-2-2）

最も多かったのは1年生で27%、次に2年生12%であった。カリキュラム上、3年後期には臨地実習が開始され、4年生においてはボランティア参加の意思があっても参加できない状況が推測された。ボランティア活動を教育的に位置づけて継続してゆくには、時間割上の工夫などが課題である。

編入3年生と4年生の参加が24%と多かった。編入生は看護への意識が高いことから、今後もボランティアの情報提供を積極的にすることでさらなる参加が期待できる。

表Ⅲ-2-2 調査回答者（n=217）

1年生	58人（27%）
2年生	27人（12%）
3年生	23人（11%）
4年生	15人（7%）
編入3年生	24人（11%）
編入4年生	29人（13%）
修士1年	5人（2%）
博士1年	1人（1%）
助産課程	35人（16%）
合計	217名（100%）

(2) 参加のきっかけ（表Ⅲ-2-3）

「自発的な意思」の参加学生が過半数であった。ボランティア活動は本来自主的であり、望ましい結果である。「携帯メールの情報から」は15%で登録メールシステムが参加動機に寄与していたことと評価できる。

「その他」の理由としては、「講義・実習の一環として」「子供が好きなので」「前回参加が楽しかったから」等が挙げられた。

表Ⅲ-2-3 参加のきっかけ（複数回答 n=217）

きっかけの理由	あてはまる	あてはまらない
自発的な意志で	116人 (53%)	101人 (47%)
家族や親せきの勧め	2人 (1%)	215人 (99%)
友人の勧め	45人 (21%)	172人 (79%)
教員の勧め	80人 (37%)	137人 (63%)
携帯メールの情報から	33人 (15%)	184人 (85%)
ポスターやチラシをみて	12人 (6%)	205人 (94%)
地域からの呼びかけ	4人 (2%)	213人 (98%)
大学ホームページを見て	2人 (1%)	215人 (99%)
その他	27人 (12%)	190人 (88%)

(3) 満足度について（表Ⅲ-2-4）

「とても満足」「まあ満足」が 93%で参加した学生の満足度は高かった。なお、不満足の原因として、「思う通りにできなかった」「人間関係がうまくいかなかった」という理由が添えられていた。

表Ⅲ-2-4 参加後の満足度（n=217）

とても満足	まあ満足	どちらかというの不満足	とても不満足	わからない	計
93人 (43%)	109人 (50%)	5人 (2%)	1人 (1%)	9人 (4%)	217人

(4) 満足の理由（表Ⅲ-2-5）

満足の理由として高かったのは、「地域の人のために役立った」22%、「相手から感謝された」20%であった。ボランティア活動を通して地域に貢献するという目的だけでなく、自分たちの活動に対して地域の人たちからの反応で満足していることが分かる。

その他の意見として、「普段できない経験ができた」「人に関わる苦手意識が減った」「地域住民の意見が聞けてよかった」「地域住民とコミュニケーションがとれてよかった」などの意見が寄せられた。

表Ⅲ-2-5 活動に参加して満足した理由（複数回答 n=217）

満足の理由	あてはまる	あてはまらない
楽しかった	176人 (81%)	41人 (19%)
地域の人のために役立った	48人 (22%)	169人 (78%)
相手から感謝された	44人 (20%)	173人 (80%)
健康生活支援の知識や技能が身についた	67人 (31%)	150人 (69%)
友人や知人を得ることができた	12人 (6%)	205人 (94%)
ものの見方考え方が広がった	39人 (19%)	168人 (81%)
その他	28人 (13%)	189人 (87%)

5) 今後の学生ボランティア活動の支援

現代 GP でシステム化が定着した学生ボランティア登録メールシステムの支援、学生主体のボランティア活動の支援を、今後発展させることが課題である。「ボランティア活動」教科及び「ボランティア部」に統合させてゆく、まちの保健室活動に学生主体のボランティア活動を位置づけて行くことが確認されている。